

Domnung Pii SCHEC

ドムヌン ピー シェック

～ シェックからの便り～

第6号(2006年7月号)

NPO法人 カンボジアの健康及び
教育と地域を支援する会(SCHEC)

東京都新宿区四谷4-3-29

伸治ビル4階 〒160-0004

Tel & Fax 03-5368-6387

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~SCHEC/>

こんにちは。NPO法人SCHECでは、毎年11月と3月にカンボジアへ赴き、齒科医による歯科治療や、井戸の設置状況の視察、小学校の建築事業の確認などを行っています。今回は06年3月の種痘をご報告いたします。事務局

みんなの希望が羽ばたく学び舎

～ プンポー・サンキム小学校開校式 ～



2006年3月13日、この乾季の時期には珍しい少し曇り空の下、今回も四輪駆動車に乗り、開校式が行われるシェムリアップ州チクレン(チークラエン)郡ブンクロム地区のブンポー・サンキム小学校を目指しました。

チクレン郡は、シェムリアップ州の東端、シェムリアップ市内より62kmと離れたところにあり、人口の93%以上が農家という地域です。

前回同様、国道6号線からそれると、日本ではとても道路とは言えない道を探検隊のように進みました。穴を越えて、次の穴へ。車の天井や窓ガラスに何度も頭をぶつけてしまいました。

この地には、1979年に村民により建てられた木造校舎があったのですが、ほとんど朽ち果てた状態で、大勢の子供たちが学校に行くことができませんでした。今回、10名のご寄付者のお志により、6教室の校舎1棟が建設されたことで、午前・午後の2部制ですが、この地域の多くの子供たちが通学可能になり、1年生から6年生まで全校生徒410人、教員6名の「ブンポー・サンキム小学校」へと生まれ変わりました。

全校生徒と地域の住民が集った開校式典では、ご寄附が3校舎目となる吉田よし子さんと、当支援活動事業を立ち上げた田口副理事長にその功績に対しカンボジア政府より「モニ・サラポワン勲章」が贈られました。

カンボジアの未来へ

ブンポー・サンキム小学校開校式に際して、ご寄附者のお一人である吉田よし子さんより子供たちへのメッセージを頂戴しましたので掲載いたします。

吉田よし子

今回、用事があり、カンボジアに伺うことができません。

私の国も約60年前に戦争が終わり、その頃、私は生まれたばかりの1歳で、父は兵隊にとられていました。戦後の混乱の中で、非常に貧しく育ったのを覚えています。小学校の体育の時間などは、裸足でした。

でも、健康なら何でもできます。勉強に、遊びに、この完成したばかりのブンポー・サンキム小学校に元気に登校してください。そして、一生懸命生きてください。

話は変わりますが、一昨年にカンボジアを訪ねた時、もらったジャスミンのレイのとてもいい香りが今でも忘れられません。きっと又そちらに行くことができると思っています。皆さんに会えるといいなと思っています。



(上)クラークモム小学校の全景。
(左)小学校内部。壁や屋根が壊れてしまっている。

生徒達の喜びの声

スムラットちゃん(写真上)は、12歳、小学3年生。将来の夢はお医者さんか学校の先生になることだそうです。



コムサラちゃん(写真下)も将来お医者さんになりたいという13歳の小学3年生です。



ブンポー・サンキム小学校でいっぱい学び、遊んで、夢を実現させてくれることを祈っています。

今後の学校建設事業

開校式の後、同じチクレン郡のコックトロック地区クラークモム小学校を視察しました。80年代初頭に建てられた木造の小学校はやはり状態が悪く、雨風の強い日は一時休校にせざるを得ないとのことでした。現在、2部制で160名の生徒が通っていますが、まだ500名を超える生徒が学校に通えない状態にあるとのことでした。教師からは6教室の校舎が欲しいとの希望がありました。SCHECでは

資金が集りましたら、是非、この地域に小学校校舎を建設したいと考えております。

井戸掘り報告

皆様からのご寄附によりチクレン郡とバンテアイスレイ郡の7ヶ村に合計70本の井戸を掘り、本年3月の視察にて確認してきました。これにより、合計273世帯、約1500人が綺麗な水を使うことができるようになりました。

皆様より井戸の耐用年数に関するご質問を戴きます。井戸本体はパッキンなどの消耗部品の交換をすれば、何十年と使い続けることができるそうです。部品の交換等は、ナム議員を通じて地域の世話人が担当してくれているとのことですが、本数が増えるにつれ、メンテナンスが難しくなっている現状もあるよ



井戸の周りに大人も子供もみんな笑顔で大集合。

うです。これからの課題としていきます。

農村地域では大家族が多いのですが、今回視察した村は、特に子沢山の家が目立ちました。子供たちに文房具を手渡すと、嬉しそうに胸のあたりに抱えてくれる子供もいて、手渡すこちらも自然と笑顔になりました。

SCHEC サポーター

SCHECの現地での活動を支えてくれている、シェムリアップ州選出のカンボジア国会議員、シアン・ナムさん（写真中央）、常宿とさせて載っている「シティ・アンコールホテル」のオーナーでもあります。



SCHEC 写真館 ～ランチタイム～



開校式の後、子供達が帰宅した教室で地元のケータリングサービス？によるランチタイムとなります。机上の赤いものはスイカです。干し魚とスイカと一緒に食べるのがクメール流。塩気と甘みがマッチしてなかなかの美味です。

05年11月の支援活動に参加して下さった大学生の増尾知恵さんより、感動のお便りを戴きました。

「カンボジアの子供たちと出会って」

今回、カンボジア視察に同行させて頂き、5日間という短い間でしたが、多くの事を学び、経験することができました。

旅の中で、ガイドさんやメンバーの方々からこの国の抱える問題など様々なことを教えて頂きました。中でも「教育を受けたくても受ける



女の子が3人集れば、おしゃべりに華が咲きます。(本文とは関係ありません。)

ことができない子供たちが沢山いる要因は、内戦の影響で学校・教師が不足しているという点はもちろん、教育費は無料であるが教材は自分で用意する必要がある事、さらには教師が給料の安さ(月2~3千円)から授業料を要求するケースもある事等、貧しい家庭では経済的に難しいという点にもある」というお話には強い衝撃を覚えました。「昇級試験がある、家の手伝いをしなくてはいけない、働いて家計を助けなければならない等の理由で、一旦就学しても

卒業できない子供も多い」とのことでした。本来子供を守り、育てていく立場の教師がその機会を奪わざるを得ない現実や、経済的な理由で初等教育さえ満足に受けられない子供が多い状況には悲しみを禁じえません。

また、実際に市街地や遺跡の周辺には(学校に行っているのかどうかは

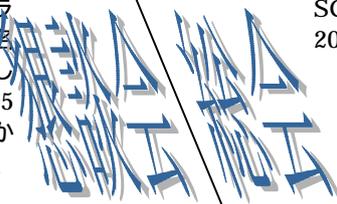
はわかりませんが)、観光客に対して物乞いをする子供やお土産物売りの子供が昼夜を問わず大勢いました。このような児童労働やストリートチルドレンの問題、さら

にはカンボジアでも多く行われているという児童買春やエイズの問題を解決する為にも教育制度の整備・充実は欠かせないと思います。

学校教育は読み書きなど生きていく上での知識を習得するためだけではなく、子供の持つ多様な可能性を育てるための大切な場です。一日でも早く、カンボジアの子供達が自分の就きたい職業を目指して存分に勉強をすることができるように願ってやみません。

(増尾知恵)

2006年4月23日、主婦会館ブラザエフにて第4回懇談会が20名のご出席をもって開催されました。視察参加者と理事による05年度活動報告に加え、ご出席者からも貴重なご意見を多数頂戴し、盛会となりました。



SCHEC 第 回総会が
2006年6月25日、

事務局便り

ニュースでシェムリアップの大気汚染がアンコール遺跡に深刻なダメージを与えているとのレポートを観ました。平和になり観光客が増えて、街が豊かになるのは良いことですが、環境破壊という新たな問題が生じています。難しい問題です。☒